



自衛隊栃木地方協力本部

大学生等を1泊2日のインターンシップへ案内

自衛隊栃木地方協力本部（本部長 梶 一陸佐）は2月16日～17日の間、宮城県において大学生等を対象とした1泊2日のインターンシップを実施した。

これは参加者が駐屯地や基地で実際に勤務している人から直接話を聞き、自衛隊を職業選択肢の一つとして認識してもらえようという企画したものである。栃木地本での実施は今回が初めてであり、9名の学生が参加した。

1日目はまず航空自衛隊松島基地を訪問し、ブルーインパールの飛行訓練及びF-2戦闘機のエンジンスタートを見学したほか、防空隊や消防隊を研修した。研修にあたっては第4航空団所属で一般幹部候補生として採用された堂腰隼平3空尉と高田萌未3空尉が、自身の職務内容やキャリアステップについて説明した。参加者からは「訓練飛行でいろんな演技を見ることができて、航空自衛隊に憧れる」「航空機整備をやってみたい」「自衛隊にも消防の仕事があることを初めて知った」といった感想が聞かれた。



その後、夕方には陸上自衛隊仙台駐屯地へ移動し、第2陸曹教育隊運用訓練幹部である大塚勉1陸尉より、幹部自衛官となるための部内選抜試験制度等について説明を受けた。大塚1尉は栃木県出身で宇都宮駐屯地での勤務経験もあるため、経歴を紹介すると参加者は打ち解けた雰囲気です。2日目は東松島市にて、東日本大震災における自衛隊の活動地域等（鷹来の森運動公園、KIBOTCHA（旧野蒜小学校）、震災復興伝承館（旧野蒜駅）、宮戸島）の現地研究を行った。旧野蒜駅では、今回の引率を担当した足利地域事務所長本村貴広1空尉が「当時、米軍が復興支援として『トモダチ作戦』を行った場所なんだよ」と説明すると、参加者は真剣な表情で聞き入っていた。

今回のインターンシップを通じ、参加者からは「もともと公務員志望だったが、自衛隊は必ず受験したい」等の感想があった。

栃木地本は「今後も職業としての自衛隊を多くの人に理解して頂けるよう活動していく」としている。

